

令和3年10月1日

保護者様

丹波篠山市立西紀小学校

校長 高森 俊広

## 丹波篠山市立西紀小学校 学習や生活に関する学力向上プラン

丹波篠山市学力状況調査 {3・4・5年生(国・算)} 生活習慣状況調査及び全国学力・学習状況調査 {6年生(国・算)} は、各教育委員会や各学校が児童の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導に役立てることを目的として実施されています。

本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、調査結果をもとに授業などの改善、学力の向上、基本的な生活習慣の定着を図るため「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しています。

今年度の実施結果を踏まえ、下記の通り成果と課題をお知らせします。

### 1 西紀小学校児童のよいところ

#### ○国語科

各学年とも全国平均及び目標値と比べてほぼ同程度でした。特に、「物語の内容を読み取る」「漢字を読む」「漢字を書く」「言葉の学習」について正答率が高くなっています。これは、毎朝の学習タイム(モジュール)、授業、家庭学習において基礎学力の定着を図ってきた成果だと考えています。

#### ○算数科

学年によって傾向は異なりますが、おおむね「数と計算」「図形」「データ(表やグラフ)の活用」の領域において、全国平均及び目標値と比べて上回るかほぼ同程度でした。これは、毎朝の学習タイム、家庭学習で授業の復習や計算ドリルを繰り返し行った成果だと考えています。また、「図形」の領域の正答率が上がったのは、授業において、デジタル教材を活用したり、黒板の掲示物を工夫して、視覚化したり、自分の考えを発表したりする機会を多く設けてきた成果だと考えています。

#### ○生活習慣・学習状況

ほぼすべての領域で全国平均より高い数値となっています。以下の領域「家族・友達・教師の支え」「社会的な規範意識(思いやり・発信力等)」「学級環境(学級の絆等)」「生活習慣」「学習習慣」は、全国平均と比べて特に高くなっています。これは、基本的な生活習慣が確立されており、学級内において良好な人間関係を築くことができていることを示しています。また、家庭、地域、学校の中であたたかい愛情や信頼に包まれながら育っていることが分かります。

## 2 課題と今後の取組

### ○国語科

学年・個人によって、苦手な領域は異なっています。特に「文章を書く」問題については、個人差があり、得意としている児童も多い反面、苦手としている児童の割合が一定数ありました。特に、「折紙の折り方を説明する」のように、生活作文ではなく、順序立てて物事を説明する文章を書くことを苦手としている傾向がありました。また、文章読解問題では、物語の読み取りが優れていた反面、説明文を正しく読み取ることに課題が見られました。そのため、本文を十分に読めていない状態で問題に解答している児童が一定数いました。複数の資料を活用して答えるような問題や複数の条件をふまえて記述する問題の正答率が低い傾向がありました。

対策としては、「西紀スタンダード」に基づいた「めあて」→「ひとり学び」→「みんな学び」→「まとめ・ふりかえり」のある授業を継続するとともに、国語以外の教科においても自分の考えや授業のまとめを「書く」活動を取り入れていきます。また、算数科、社会科、理科での資料を活用し、言語活動に発展させる学習に取り組んでいきたいと考えています。

### ○算数科

各学年とも「量と測定」「数量関係」の領域で、全国平均及び目標値と比べて、同程度か下回っていました。具体的には、「4億5000万は、1000万を何個分か?」のように億や兆のような大きな数の数量関係を答える問題や「 $1/4$ の量を図からえらぶ」など分数の数量をあらわす問題において、誤答が多くも見られました。

対策としては、授業において実物を使ったり、体験を伴った活動をしったりすることで、数量の感覚を養うことを目指していきます。また、友達に教えたり、全体に説明したりするような活動を取り入れ、表現力を高めると共に理解の定着を図ります。今年度から導入された一人一台端末を活用して、補充的・発展的な学習に取り組むことにより、個に応じたきめ細やかな学びを支援していきます。

### ○生活習慣・学習状況

ほとんどの設問で、全国平均より良い傾向ですが、具体的には、一部の学年において「クラスの人がふざけておしゃべりしたりして授業に集中できないことがあるか」「クラスの人にからかわれたり、いやなことを言われたことはありますか」の設問でやや課題が見られました。また、テレビやインターネットを3時間以上利用している児童が、中学年から高学年まで一定数いました。

学校では、地域校外学習、田植え・稲刈り体験、地域防災訓練など地域と連携した行事や児童会活動、学校行事の評価・改善を図り、豊かな人間性を育てる教育活動を充実させていきます。成功体験の実感できる機会を増やし、自分に自信が持てるように声かけをすることに心がけます。また、互いの違いを認め合い、それぞれの良さが発揮される学級作りに力を入れます。ネット社会の進行により、スマートフォン等の利用がますます増えています。使用を制限するだけでなく、トラブルに遭わないように正しい使い方を教えていく必要があります。学校、家庭、地域が連携して子ども達を指導し、見守っていききたいと考えます。